

関学同窓会 銀座に交流拠点

会議室やホール備え

関西学院（西宮市）の同窓会の新オフィスが東京・

銀座に開設され、11日、記念式典が行われた。卒業生ら54人が参加。首都圏における交流拠点として会議室やホールを備え、全国の卒業生が利用できる。

関西学院同窓会によると、関学大の卒業生は毎年5千人を超え、半数近くが東京で社会人生活をスタートさせるといふ。これまでは東京駅に隣接する「丸の内キャンパス」が卒業生の集う機能を兼ねていたが、



開設記念式典であいさつするオリックスの宮内義彦（左）と二ア・チエアマン（右）。東京都中央区銀座3。

大学の教育や研究、就職活動の拠点としての用途が狭大。手狭になってきたことから分離して新設することになった。

記念式典では、舟木護院長が関学大神学部のルーッが東京・青山の神学校にすることを紹介し、全員で話した。

また、卒業生でオリックスの宮内義彦（左）と二ア・チエアマンもあいさつ。「1965年に東京で働き始めた頃、関学は知られていなかったが、知名度が上がってきた。卒業生がここで英語を養い、活躍する拠点にしたい」と述べた。

関西学院同窓会本部
 オフィス ☎03・6266・6275
 （永見将人）

関西学院同窓会の交流拠点オープン

銀座、現役生も利用可
 関西学院大（兵庫県西宮市）の卒業生でつくる「関西学院同窓会」は、同窓生らが集う首都圏の拠点となるオフィスを銀座にオープンさせた。



これまでは、東京丸の内キャンパス（千代田区丸の内）内の東日本センターに同種の間があったが、機能を強化し、銀座に独立オフィスを構えた。

同窓会によると、関西学院大の新卒者は年約5千人で、近年は半数程度が東京に本社を置く会社に就職するなど一極集中が加速しているという。これに伴い、卒業生らの首都圏での交流も活発化し、拠点の強化を求める声も相次いでいた。

新たな銀座オフィスにはWi-Fi環境を備えたオープンスペースが設けられ、最大60人が利用可能なメインホールは勉強会や講演会などにも対応が可能。現役生も利用できる。

11日に行われた開所式で、オリックス名誉会長などを務めた同窓会の西名弘明会長は「ミーティングの場などとして積極的に利用してもらいたい」と述べた。

写真。